

ふれあい つながり かわら版

平成31年度(2019年度)

小中一貫教育スタート!

第1回小中一貫教育担当者会

4月15日(月)に第1回担当者が実施されました。開会前に、受付を終えた先生方が校種関係なく談笑する姿が多く見られました。これこそが導入から10年の財産です。そして、ここから新たな10年の幕開けです。

本年度の重点的取組

- 一 検証方法の明確化と取組の改善(2年目)
- 二 地域・家庭との共有と連携(2年目)

鍵は「目指す子供像」

本年度の重点取組は右の通りです。これまでの小中一貫教育の取組を見直し、より効果的な取組へと改善を進めるために、昨年度より、各ブロックにおける取組の成果検証を報告しています。

検証を進めるためには、「目指す子供像」が具体的に設定されている必要があります。また、具体的な目指す子供像の設定は、小・中教職員の共有はもちろんのこと、児童生徒との共有や保護者・地域住民との共有や連携にもつながります。「目指す子供像」を鍵に、二つの重点取組を充実させてください。

姫路市教育委員会
学校指導課
小中一貫教育推進係
(079)221-2120



各ブロックの課題に応じた取組

担当者会では、白鷺小中学校の山口校長より「姫路市の進める小中一貫教育のあゆみと今後の展望」と題した講話がありました。姫路の教育の魅力をさらに高めることを目指して小中一貫教育が導入されたこと。義務教育学校1年目は、中期(5・6・7年)を中核に据えた取組が充実したことなどの報告がありました。そのうえで、「全ての学校に求められること」と「義務教育学校に求められること」を整理し、今後の展望について説明がありました。(図1)

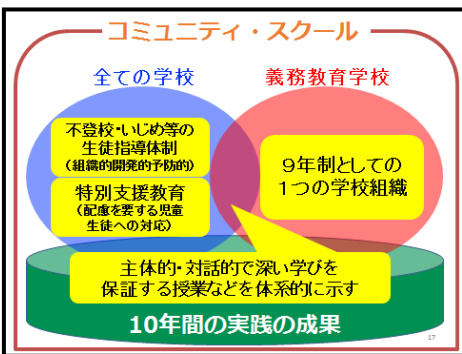


図1 白鷺小中学校、今年度の方向性

「ブロックに求められていること」「目指す子供像」も実態に応じて異なります。しかし、「目指す子供像」の実現に向けて、取組を長期的・短期的な視点で検証し、取組を改善していくことは共通です。全てのブロックが課題の解決に向けたチャレンジャーです。失敗を恐れず挑戦しましょう。

ブロック協議

最後に、「推進計画書を磨く」というテーマで①目指す子供像、②重点的な取組、③検証指標の見直しをしました。ブロックのがんばりを具体的な質問項目で見取るため、熱心に協議がなされ、設定した時間があっという間に過ぎました。



推進計画書の検証方法を話し合う担当者

担当校長あいさつ

義務教育学校や分離型ブロックなど、条件によって取組は色々あるけれど、授業は全ての教職員に共通の取組です。学力の向上だけではなく、人間関係力の育成においても授業改善は重要な視点です。一人ひとりの良さを活かして授業力を高めていきたいと思います。

義務教育学校 四郷学院開校

平成31年4月8日、姫路市立四郷学院の開校式を実施しました。



「四郷学院の『院』という漢字は、人々が集まるところという意味があるそうです。四郷の子たちの学びと成長のために、四郷の人たちが集まるところ、それが四郷学院です。」
(開校式学校長あいさつより抜粋)